1. 2020 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

— 2021 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 —

COVID-19 下での入試対応

- ・入学説明会のオンライン・リモート実施
全体説明会および個別説明会はオンライン・リモート形式で実施した。
- ・中学部入試での感染拡大予防のためによる面接試験の中止
- ・中学、高校入試当日における感染拡大予防対策の徹底

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

— グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画 —

① シラバス改革 (授業改革) とグローバル化の推進

COVID-19 の影響のため各企画の縮小を余儀なくされた。

- グローバル社会において求められる正解のない問題に知的に挑戦し得る能力を身につけることを目指して、問題発見・解決型授業への改革を追求し、授業内容・方法の学科を越えた実践交流と研究機会を拡充した。
- 知的探究心を涵養し研究力の基盤となる知識・技能の獲得に向かわせる諸取り組みを推進した。
 - ・STEM 国際共同研究 (海外高校との理系分野の国際共同研究・共同学習) の延期
 - ・地球的課題に挑戦するグローバルな知の共創を目指す新規グローバル共同学習事業の開発
 - ・首都圏オープン (首都圏高校生による理系研究発表・交流会) の延期 (2021 年春に実施予定)
 - ・探究力と基礎力を高める授業・活動 (フィールドスタディ型探究・英語アカデミックプレゼン・企業連携プロジェクト) の充実

② カリキュラム構造改革と進学指導改革 (2022 年新学習指導要領実施に向けて)

- 目的意識と学習意欲、研究 (進学) 動機の明確化と高揚を図るために、大学での研究・学問への導入と進学動機づけとなるカリキュラム構造・シラバス内容を研究開発し、2022 年新学習指導要領実施に向けて新教育課程を策定した。
- 上記 a と各種の高大接続事業の導入と学部の協力による独自の「学部への招待」「学部 WEEK」の取り組みを企画したが、COVID-19 の影響で各イベントの縮小を余儀なくされた。11 月に実施した学芸発表会では、学院 OB (早稲田大学在学学生、卒業生) の協力を得て、学部・学科説明動画コンテンツを作成した。

③ 高大接続テスト (高校 3 年生対象) 実施

下記の要領で実施した。

- ・実施教科: 国語・数学・英語
- ・実施日程 2020 年 11 月 21 日 (英語: GTEC)、2021 年 1 月 19 日 (国語、数学)

④ TOEFL-TOEIC の実施 (高校生対象)

下記の要領で実施した。

- ・1 年生: 2020 年 1 月、2 年生: 2020 年 1 月、3 年生: 2020 年 9 月、2021 年 2 月

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

① 研究活動の推進

研究年誌の発行や特定課題研究の促進・サポートを行った。

② STEM 国際共同研究開始 (2021 年度実施予定)

③ 地球的課題に挑戦するグローバルな知の共創を目指す新規グローバル共同学習事業の開発研究

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

① 学術交流協定締結校・機関の状況 (2020 年度現在)

国立政治大学附属高級中学校 (台湾)、日仏高等学校ネットワークコリブリ (フランス)、
ゲーテ・インスティテュート (ドイツ)、ハナ高等学校 (韓国)、
サントペテルブルク国立学校 583 (ロシア連邦)、ザビエルカレッジ (オーストラリア・メルボルン)、
セントポールカレッジ (オーストラリア・シドニー)、北京大学附属高級中学 (中国)、
ラインガウギムナジウム (ドイツ)、ロクロー高等学校 (フランス・パリ)

② 派遣留学 (長期)

・留学一種：1名、留学二種 (留学期間を含んで3年間で卒業できる留学制度)：1名

③ 派遣留学 (短期)：0名

④ 受入留学：0名

⑤ 学術協定締結校・機関等によるオンライン・リモート交流

COVID-19 の影響により、今年度の国際交流はすべてリモート形式で実施した。

・PASCH オンラインワークショップ (ドイツ)：6月～3月 (参加者：延べ55名)

・ハナ高等学校 (韓国) とのオンライン交流：6月～10月 (参加者：15名)

・日露青年交流センターとのオンライン交流：6月～10月 (参加者：10数名)

⑥ その他：国際交流プログラムへの参加

・スタンフォードプログラム (Stanford e-Japan Program) 参加者2名

2. 2021 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2022 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

① 世界に羽ばたく人間を創る早稲田の一貫教育の推進 (首都圏の優秀な生徒の確保)

卒業生のほぼ全員が早稲田大学へと進学する学院生に対し、三つ教旨を胸に「早稲田スピリット」をもって、中学生は 10 年間、高校生は 7 年間の「早稲田の一貫教育」のなかで自由・平等そして平和な社会に貢献する「すこやかで、しなやかでそしてたくましい」人材を育成する。

② 入試広報活動の徹底

- ・大学附属校の優位性をアピールし、一貫教育に相応しい優秀な生徒を確保する。
- ・2020 年度の COVID-19 の経験を活かし、入試説明会の実施においてはリモート開催など、ハイブリッドな形態で柔軟に実施する。

③ 「思考力・判断力・表現力」を評価する入試の実施

入試の出題はその学校が求めている生徒像を反映する。書く力、読む力である基礎力にあわせて思考力・判断力・表現力を問う出題を重視する。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

COVID-19 を契機とした ICT (情報通信技術) を活用する教養教育の実現

次の 2 つを柱とした教養教育を施すことで、専門教育を見据えた早稲田の一貫教育に相応しい優れた生徒を育成する。

- ・基礎基本教育の徹底 (3R's^{*1}) …すべての教科での読む力、書く力、数学する力
 - ・探究的な学びの推進 (4C's^{*2}) …批判的思考力、コミュニケーション能力、協働力、創造的問題解決能力
- *1) 3R's : Writing, Reading, Arithmetic (Discipline-Based Learning).
*2) 4C's : Critical thinking, Communication, Collaboration, Creative problem-solving, (Interdisciplinary Learning).

具体的に今年度は、次の 3 つを重点化する。

① ICT を活用した新しい学びの創造

オンライン授業実施で培われた教育の ICT 化をもとに、柔軟で持続可能な教育方法をあらゆる学習機会において確立し、基礎的・応用的な学力を培うと共にその学びの質を保証する。

- ・中学部：今年度入学生から 1 人 1 台のパーソナルコンピュータを必携化し ICT 教育を充実する。
- ・高等学校：2022 年度新学習指導要領実施に向け、すべての教科において探究的な学びの実現に向け ICT を活用する。また、全員に対して統計やプログラミングを必修化し、データサイエンス教育を展開する。

② グローバルな視点をもった学びの充実

すべての教科や 2 年「総合的な探究の時間」および 3 年「総合的な探究の時間 (卒業論文)」等において SGH^{*3}、SSH^{*4} 指定校の経験を生かし、SDGs などグローバルな課題に取り組む探究的な学習を一層推進する。また教科外では COVID-19 で中断している留学等の国際交流を活性化し、中学・高校ともにグローバルな視点を持った学びを充実する。

*3) SGH : スーパーグローバルハイスクール、*4) SSH : スーパーサイエンスハイスクール

③ キャリアデザイン教育の推進 – 学部アドミッションポリシーにかなう中高大一貫教育の推進 –

「将来の学部・学科進学を見据えた基礎学力の養成」

高等学院「高大接続テスト」（早稲田大学進学後に学術・研究の途を進むにあたって求められる基本的な知識・技能がどの程度身についているか確認するテスト）の実施と検討。

「進学後の可能性を広げる取り組み」

COVID-19 下においても進学指導における附属校の優位性を改めて確認できたことを踏まえ、キャリアデザイン教育に積極的に取り組む。そして学院生が各学部に進学し勉学・研究、スポーツの各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を推進する。

- ・進路講演会（社会人 OB 約 20 名による 10 月 3 年生対象）
- ・モデル講義（各学部 10 月）未定
- ・進路説明会（理工 3 学部 6 月・その他学部 9 月）未定
- ・OB などによる学部学科説明コンテンツのライブラリー化
- ・日本医科大学への医学部進学指導の充実とキャンパスツアーなどへの参加

④ プロジェクト活動の推進（本庄高等学院との協働）

生徒が主体的に取り組むことができるプロジェクト活動の活性化と本庄高等学院との協働

例：環境プロジェクト、国際交流プロジェクト、企業連携プロジェクト、模擬裁判プロジェクトなど。

（3）研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連）

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

① 研究年誌発行と充実

② 外部研究資金への応募および獲得の推進

高等学院教員の文部科学省科学研究費、民間研究資金、学内研究資金などの獲得を促進する。

③ ICT 教育に関する民間団体との研究協力

④ 教員研修（ファカルティ・ディベロップメント：FD）の充実

COVID-19 での対応を踏まえ、ネットワークを活用したオンデマンド授業環境の整備、教材開発、授業形態の研究を充実させる。また、生徒指導（特に、生徒の発達等）に関する研究・研修も充実させる。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等－

COVID-19 で中断した国際交流を再開する。

① 学術交流協定締結校・機関の新規開拓

国立政治大学附属高級中学校 (台湾)、日仏高等学校ネットワークコリブリ (フランス)、
ゲーテ・インスティテュート (ドイツ)、ハナ高等学校 (韓国)、
サントペテルブルク国立学校 583 (ロシア連邦)、ザビエルカレッジ (オーストラリア・メルボルン)、
セントポールカレッジ (オーストラリア・シドニー)、北京大学附属高級中学 (中国)、
ラインガウギムナジウム (ドイツ)、ロクロア高等学校 (フランス・パリ)

② 派遣留学 (長期)

留学一種ならびに留学二種 (留学期間を含んで 3 年間で卒業できる留学制度) を推進する。

③ 派遣留学 (短期)

中学部: セントポールカレッジ、高校: シアトル英語研修 (春休み)、ハナ高等学校シンポジウムなどを実施する。

④ 受入留学

長期 (AFS、YFU など)、短期 (コリブリ、ハナ、北京、サントペテルブルグなど) を積極的に受け入る。

⑤ 学術協定締結校・機関等による交流の推進 (2021 年予定しているもの)

- ・ゲーテ・インスティテュート (PASCH 活動)
- ・ハナ高等学校 (韓国)
- ・日露青年交流センターとの交流
- ・コリブリとの交流

⑥ その他 (国際交流プログラムへの参加など)

- ・スタンフォード e-ジャパンプログラム (Stanford e-Japan Program) への参加
- ・ICC のアウトリーチプログラムへの参加 (中学部)

(5) その他

－ (1) ~ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

① 上石神井キャンパス整備 (第三期工事)

教員室、理科実験教室、家庭科室、食堂、ラーニングコモンズなど高等学院の教育の特色を実現するのに相応しい校舎建設 (第三期工事) に取り掛かり、安心・安全なキャンパスづくりを目指す。

② あらゆる災害から命を守る安心・安全なキャンパスづくり

COVID-19 に対応する感染拡大防止対策の徹底。あわせて COVID-19 下を見据えた首都圏大規模地震対策を推進し、安心・安全なキャンパスづくりに心がける。

③ 地球環境を意識したキャンパスづくり

SDGs などの目標 (7、11、13 など) に対し、教職員・生徒全員が地球環境を意識して行動する。

④ 早稲田大学創立 150 周年の 2032 年度を目途に学院独自の周年行事の検討・企画

重点項目を 5 年程度にわたる計画として策定し、取り組みを推進する。